

箇所及び、死者6人、行方不明者1人の人的被害が出た。また、風光明媚で水流豊かな宮川の溪流は、土砂災害により瞬く間に姿を変えてしまった。

台風21号は、宮川村のみならず愛媛県、兵庫県、徳島県、香川県等で多くの土砂災害を発生させ、愛媛県新居浜市大生院地区では死者4人の被害を出した。

台風15号に続いて被害を受けた愛媛県、香川県では、東西における交通・輸送の大動脈である道路・鉄道が寸断され、復旧までに相当の時間を要している。

### 流木被害の新たな側面 海を渡って他県に到達

このように、台風21号による局地的豪雨は西日本で土砂災害の大きな爪跡を残した

が、さらに二次災害も起こった。流木が伊勢湾内へ流れ出たのである。台風通過から一夜明けた30日朝には、伊勢湾内を漂流していた流木は西風の強まった朝7時ごろより愛知県美浜町から南知多町に至る知多半島の伊勢湾側の海岸へ漂着。海岸延長7.4kmに約2万2000m<sup>3</sup>という大量の流木が漂着する騒ぎとなった。流木の漂流に対して漁業関係者は、流木を避けるなどの応急的な措置を施した。

流木の漂着後は、海岸管理者である愛知



▲愛知県美浜海岸に漂着した流木〔資料提供/愛知県建設部〕

県により流木は速やかに撤去・収集された。また、愛知県では集積された流木のリサイクル活用を進め、その大部分を処理した。

【インタビュー】

INTERVIEW



三重県 宮川村長  
尾上武義氏

## 慣れていたはずの大雨で被災

～想定を超えた局地的豪雨の実態～

死者6人、行方不明者1人の犠牲が出た宮川村。119mmという最大時間雨量を観測した同村で村役場はどう対応したのか。

今後の復興計画を含めて、宮川村長の尾上武義氏に伺った。

●日本の最多雨地域である宮川村では、住民の皆さんは豪雨に慣れており、災害に見舞われると考えていなかったのではないのでしょうか？

確かに住民が豪雨に慣れていることは事実です。災害が発生した当日も平常通りでしたね。各地区を巡回している職員からも沢の水は通常通りであるとの情報が入っていました。ところが、9時半ごろになると一気に情報量が減り、何かが起こるのではという半信半疑の状態になりました。

今考えてみると、9月の降雨日数が20日間もあり、山の保水が限界に達していたのでしょう。

●状況把握ができず、不安な状況だったわけですね。

そうです。役場周辺は20mm程度の雨しか降っていませんでしたので、村の別の場所で局地的豪雨になっていることすら考え

る余地もありませんでした。しかし、その時には豪雨が宮川村山間部に降っており、その猛烈な雨によりアメダス観測点からのデータ回線が切断されてしまいました。電話も不通になり、情報収集に障害が発生していたのです。

その時、「これはいかん。被害者を出してはだめだ。半ば強引にでも避難させなければ」と思いました。そして、10時10分に最初の避難勧告を小滝、栗谷地区に出しました。

残念なことに人的被害を出してしまいましたが、最終的に過去に例のない全村避難へと至ったわけです。

●日本一の清流である宮川の再生はできるのでしょうか？

現在、県に村内の350箇所の復旧の要請をしているだけでなく、被災した皆さんの新住宅に関する問題など、災害の片付けだけ

でなく、様々な優先事項があります。もちろん、宮川の清流再生も考えています。大量の土砂が流れ出てしまいましたので、村民の皆さんの力を借りながら、まずゴミ拾いからクリーン化を始め、徐々に美しい宮川に戻していきたいと考えています。

●災害に見舞われたときの対応と他市町村へアドバイスをお願いします。

災害時に欲しいものは、リアルタイムな情報ですね。また、住民の方にも状況を伝える手段があればと思います。雨音などで防災無線が聞こえないケースもあります。これらは両方とも整備が必要です。

他の市町村へのアドバイスとしては、空振りでもいいから避難勧告の発令をためらわないことです。何が起こるか予測がつかないのが災害です。

人命第一を考え、避難勧告にためらう必要はありません。